

「聖書の言葉」

わたしの魂は塵に着いています。

御言葉によって、命を得させてください。 詩編 119:25

現実の心重くなるような問題に、あ～あ、何もうまくいかないなあ、「流れのほとりに植えられた木は実を結ぶ」ってあるのに、何の実も結ばない私って、いったい何なんだろう。どこが間違っているのか、何が足りないのか……。そう思いながら、それでもとりあえず「神様、感謝します」と短く祈って眠りについた。ひと眠りしてふと目覚めると、歌っていた。「立て、立て、永遠に変わらぬ御言葉を信じ立て 神の御言葉に立て」

ずっと以前、狭山集会のみんなで特別賛美をした曲、新聖歌 361 番。その時は、ソプラノとアルトの早さがちぐはぐになって、おかしな特別讚美になったけれど、その頃くり返し練習した曲は頭にしみついていていたものとみえる。

栄の王にます主の 御言葉に堅く立ちて

「神には御栄あれ」と 高く歌い叫ばん

ああそうか、そうだった。現実を見て、なるほどすべてうまくいっている、何もかも思い通りに事が運んでいる、神様を信じているとこんなにうまくいくなあ……。というのが、必ずしもキリスト信仰ではない。キリスト信仰とは、現実の状況がいかようであれ、どんなにへこんでしまうようなことが重なっても、御言葉に堅く立つことなんだ。そう気づくと次々と御言葉が思い浮かぶ。

「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」ロマ書 8:32 とあるではないか。神様は私たちを救うためにイエス様を与えてくださった。イエス様こそ神様から人への最高最大のプレゼントであると、クリスマスの度に喜び祝うではない

か。最高最大の恵みを与えてくださった神様が、私たちのささやかな願いを拒まれるはずがない。「御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」との聖書の言葉が真実であるなら、現実がいかようであれ、人の目にも自分の目にも何の実りのない貧しい日々であっても、そんなこと何とすることはない。神様が与えてくださるのだ。私たちが願い求めるよりはるかに素晴らしいことを、必ず実現してくださるのだ。

「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方」エペソ 3:20 とあるではないか。神様は、私たちが求めたり思ったりするすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方ではないか、私たちはこんなお方をわが神と信じて生きているのだ、何を落胆する必要があるだろう。

♪ 立て立て 永遠に変わらぬ御言葉を 信じ立て 神の御言葉に立て

本当にそうだった。神様を信じるとは、その御言葉を信じることではないか。

「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」とイエス様は言われた。

「この民は草に等しい。草は枯れ、花はしぼむが、わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」と、イエス様がこの世にお生まれになる前から言われている。いやいや、天地創造そのものが、「神は言われた」と神の言葉をもって始まったのだ。すごい！と、真夜中であるのも忘れて、一人喜び、感極まって歌っている自分が可笑しくなった。

前日の主日礼拝の聖書箇所はエゼキエル書2章～3章15節だった。1章で、北の方から激しい風が大いなる雲を巻き起こし、火を発し、周囲に光を放ちながら吹いてくる、その主の栄光の姿の有様を見てひれ伏したエゼキエルが、「人の子よ、自分の足で立て」と神の声を聞くところである。はじめは何を書いているのかおぼろであったが、くり返し素読していると、同じことが何度も言われているのだと糸のもつれが解けるように分かってきた。神に逆らう反逆の民、恥知らずで強情な人々に遣わされ、神

の言葉を語るために、エゼキエルはまず「人の子よ、自分の足で立て」命じられたのだ。

そう命じられた時、「霊がわたしの中に入り、わたしを自分の足で立たせた」とある。そうだ、これだと思った。神の言葉は空手形ではない。「立て」と言われる時には、立つ力を与えて立たせてくださる。

「自分の足で立て」と言われて立ち上がる様は、イエス様の御業として福音書に、聖霊の働きとして使徒言行録に、いくつも記されている。福音書と使徒言行録だけではない。イエス様に会って、「自分の足で立ちなさい」と言われ、自分の人生を自分の足で歩み始めた人は数限りない。たとえ、肉体のとげとして不自由な体を与えられていても、イエス様の「立ちなさい」との言葉に、その人にしかできない、素晴らしい歩みを始められた方も数限りない。樫葉史美子さんの詩を思う。

神の前に二人なき 私の使命
起たねばならぬ召命を感じたら その時こそ
十年の病床を蹴って 起とう。

現実のどうにもならないありさまに見入って、所詮人間は罪人だと悟ったり、そんな自分や回りの人をダメだダメだと嘆くのが信仰ではないはず。そんなダメな人間のただ中にキリストが来てくださって、「自分の足で立て」と言ってくださる。そして、どんなに小さな者であっても、その人にふさわしい働きを与えてくださり、今日を喜び、感謝と勇気と何よりも永遠の希望をもって、真に生きる者としてくださる。神様ってすごい。

神を信じず平安を失った人間が、様々な戦いに明け暮れるのは世の常である。こんな世にあって、私たちがなおも神を神とし、信仰と希望と愛に生きようとするなら、「この巻物を食べなさい」と言われたエゼキエルが食べたように、私たちもまた、聖書に記された神の言葉を魂の糧とし、朝に夕に食事をするように、御言葉によって養われなければならない。

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」
との御言葉は、旧約の時代からイエス様の時代も、そして今もこれからも、永遠に真
実なのだと深く思う。